

# 平成27年度 学校評価実施報告書

## 3 2回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にわらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	
1	確かな学力	授業改善 コミュニケーション能力の育成 読書の習慣化	・学習確認プログラムの結果分析と研修会の実施 ・研究授業を年間7回実施 ・すべての教科でグループ活動を取り入れ、他者との意見交換を中心とした言語活動の充実を図っている。 ・朝読書の確実な実施 ・ピピオバトルの実施	・教科の授業がよく分かる(アンケート) ・分かりやすく興味が持てるように授業を工夫する ・学習確認プログラムの結果 ・生徒の聴く・考える・話す様子の変容観察。 ・読書の習慣が身についている(アンケート) ・平日の読書時間や図書室の利用状況(教科での聴き取り)	・教科の授業がよく分かるについては教科によってバラツキがある。 ・家庭学習の習慣が3年生70%、他学年はさらに低く課題である。 ・授業での、「他の話を聞く」が90%超に対して、「自ら進んで発言する」割合が80%と低いことが見て取れる。 ・後期は図書室の整備が進み利用者も増えた。アンケートにおいても全体の80%以上が読書習慣が身についたと回答。	⇒
2	豊かな心	豊かな心の育成 豊かな体験活動の実践	・道徳年間授業計画に従った指導、及び系統的な人権学活の実施。 ・全校一斉グリーン活動 ・ボランティア活動	・いじめを許さない仲間づくりができている(アンケート) ・自分や人を大切にしている(アンケート) ・学校行事や学級の取り組みに積極的に参加している(アンケート)	・全体として、前期よりポイントが10以上高くなった。ただし、人を大切にしているでは1年がややポイントが下がったことが気にかかる。 ・どの学年も前期よりポイント以上高くなり85%超ができていと答えている。	⇒
3	健やかな体	基本的生活習慣の確立 体力の向上	・規則正しい生活が来ている。 ・時間を大切にしている。 ・運動を通じて体力を増進し、生涯スポーツ・体力向上活動を推進する。	・規則正しい生活ができている(アンケート) ・ベル着席を守るなど時間を大切にしている(アンケート) ・球技大会や体育大会等の行事への積極的な参加	・全体として90%超が規則正しい生活を送っていると回答。ただし2年生で「時間を大切に」が前期より4ポイント下がっている。 ・運動部への入部割合は全体の60%超で、積極的な活動をおこない、全国大会へ出場など成果をあげている。	⇒
4	独自の取組	開かれた学校づくり(適切な行動・情報発信の充) 小中一貫教育の推進	・積極的なホームページの更新 ・PTAや地域に対する情報発信と意見交換 ・小中情報交換会 ・小中一貫SSH連携事業の推進	・学校ホームページへのアクセス数。 ・学校や生徒の様子がよく分かる。 ・情報交換会の振り返り。 ・校内におけるポスター発表会の振り返り。	・後期に入り、昨年度に比べてホームページのアクセス数は平均して30%増を維持している。 ・情報交換会が有意義かつ効果的であったとの意見が多かった。 ・特に2年生におけるポスターセッションが効果的であった。	⇒

## 学校名(京都市立大枝中学校)

自己評価		学校関係者評価	
評価日	平成28年2月4日	評価日	平成28年3月3日
評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分析 (成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・全学年とも、学習確認プログラム等の結果分析から、校内での取り組み不足が見て取れる。予習シートや復習シートを有効活用し、さらに学習効果を高めるための手立てをおこなう必要がある。 ・授業において、前期より「人の話を聴く」ことに重点を置き、本時の目標提示や分かりやすい学習課題を設定することで、その成果が徐々にあらわれてきている。家庭学習の習慣化に落ち込みが見られる。課題の質や量について、全校として見直すことが必要。	・まずは「本時のめあて」の提示することを徹底すること。 ・授業の振り返りを必ずすることで、本時の内容の深まりを目指す。 ・家庭学習の習慣化に大きな課題が見られる。次年度は週末課題の設定や、学年での継続的な取り組みを計画し、検証していく必要がある。 ・朝読書の持ち方について、期間限定で教科学習などの「朝学習」と併用していくことも検討していきたい。	・前期でも話題となったが、教科によって「授業がわかる」の項目で度合いに差異が見られることが気になるのとご意見をいただいた。	・次年度には、学校運営協議会の設立を受け、何らかの学習支援ができないかを検討していきたい。
・授業において、小集団によるグループ学習を積極的に取り入れていることが、仲間づくりの効果を生んでいる。 ・道徳指導において、のぞましい「集団づくり」を意識した資料をさらに研究していく必要がある。 ・生徒会による呼びかけで、地域でのボランティア活動に参加する生徒が増え、成果が見られている。	・後期より、生徒指導部を中心として「のぞましい集団・学級づくり」を推進するための「つながりプロジェクト」を立ち上げている。次年度には三学年で系統的・系統的に整理した教材をおこなうことで成果を出したいと考えている。 ・各教科・領域において、小集団によるグループ活動を意識した課題設定について研究を進め、さらなる授業改善を推進する。 ・放課後など、教職員が生徒たちと交流する時間を確保するための工夫をする。	・生徒アンケート、保護者アンケートともに「気軽に相談できる先生がいる」という項目でのポイントが低いことが課題ではないかとのご指摘をいただいた。	・休日参観や学年懇談会等に、保護者の皆様の積極的な参加を促すことを、自治会等でも呼びかけていきたい。
・球技大会や行事への参加について、全学年とも積極的に取り組んでいた。 ・SNSやインターネットなど、情報機器に対するモラルの向上は成果をあげている。 ・新たな課題として、薬物乱用等の防止に向けた効果的なプログラムを検討する必要がある。	・校内での様々な行事における生徒たちの活動を継続的に評価し、さらに個々の自己有用感を高める取り組みを研究する必要がある。 ・教科指導のみならず、学活や道徳においても情報モラルや薬物乱用など、よりよい生活について学習する機会を設ける。	・薬物乱用などの新聞報道がされ、中学生の実態について心配している、とのご意見をいただいた。	・地生連行事や、少年補導等での取り組みにおいて、子どもたちの健全育成にこれまで以上に支援していきたい。
・後期も、ほぼ毎日ホームページの更新をおこない、保護者や地域の方々に学校の教育実践に関するメッセージを発信できていることが効果的である。 ・次年度の、集中合同ポスターセッション発表会に向けて、小中での研究体制を確立する必要がある。	・生徒の活動や学校の様子についての広報は頻繁におこなっているが、さらに日々の学習課題や内容、さらにさまざまな情報を保護者の皆様や地域の方々に発信していくことが求められている。 ・研究部を中心として、ポスターセッションに関する小中合同のプロジェクトチームを立ち上げることを検討する。	・アンケートのとり方や時期について、さらに工夫をお願いしたいのご指摘をいただいた。	・アンケートの実施時期に合わせた学校行事の計画などを検討し、あわせて保護者の皆様に協力を呼びかけていただく。

## 4 総括・次年度の課題

- 現状において様々な課題は見られるが、上記の学校評価をもとに次年度の主な重点課題として、以下の3点をあげたい。
- 1)「いじめ」などの学校生活における重要な問題を未然予防する取り組みとして「つながりプロジェクト」を推進し、早期に発見・迅速な対応ができる学年や学校の体制づくりを生徒指導部を中心としておこなう。
  - 2)さらなる学力向上に向け、授業における本時の目当ての提示や振り返りを徹底するとともに、本校の課題である家庭学習の習慣化に向け、研究部が中心となり学年として継続的に取り組む。
  - 3)本校生徒のメンタル面での課題である自尊感情の高揚、自己有用感を涵養するために、学級でのさまざまな係活動や生徒会活動を中核とした様々な体験活動を企画し、実践していく。